

第6節 ライフライン整備

斜面地の造成にあわせ、電気、ガス、上水、污水（漁業集落排水）の再整備を行った。
尚、ガスについてはLPガスによる供給であるが、震災前と同様、ガスステーションから配管し集中管理することとした。

(施工者)

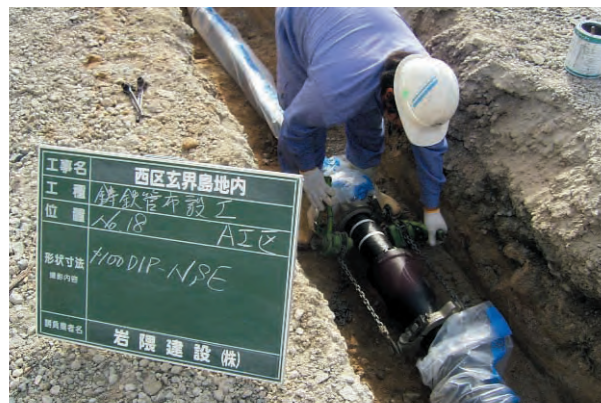
- 電 気 …………… 九州電力
- LPガス …………… 箕原商店
- 上水道 …………… 福岡市水道局
- 漁業集落排水 …… 福岡市農林水産局



ガス管の融着



ガスステーション



水道管布設状況



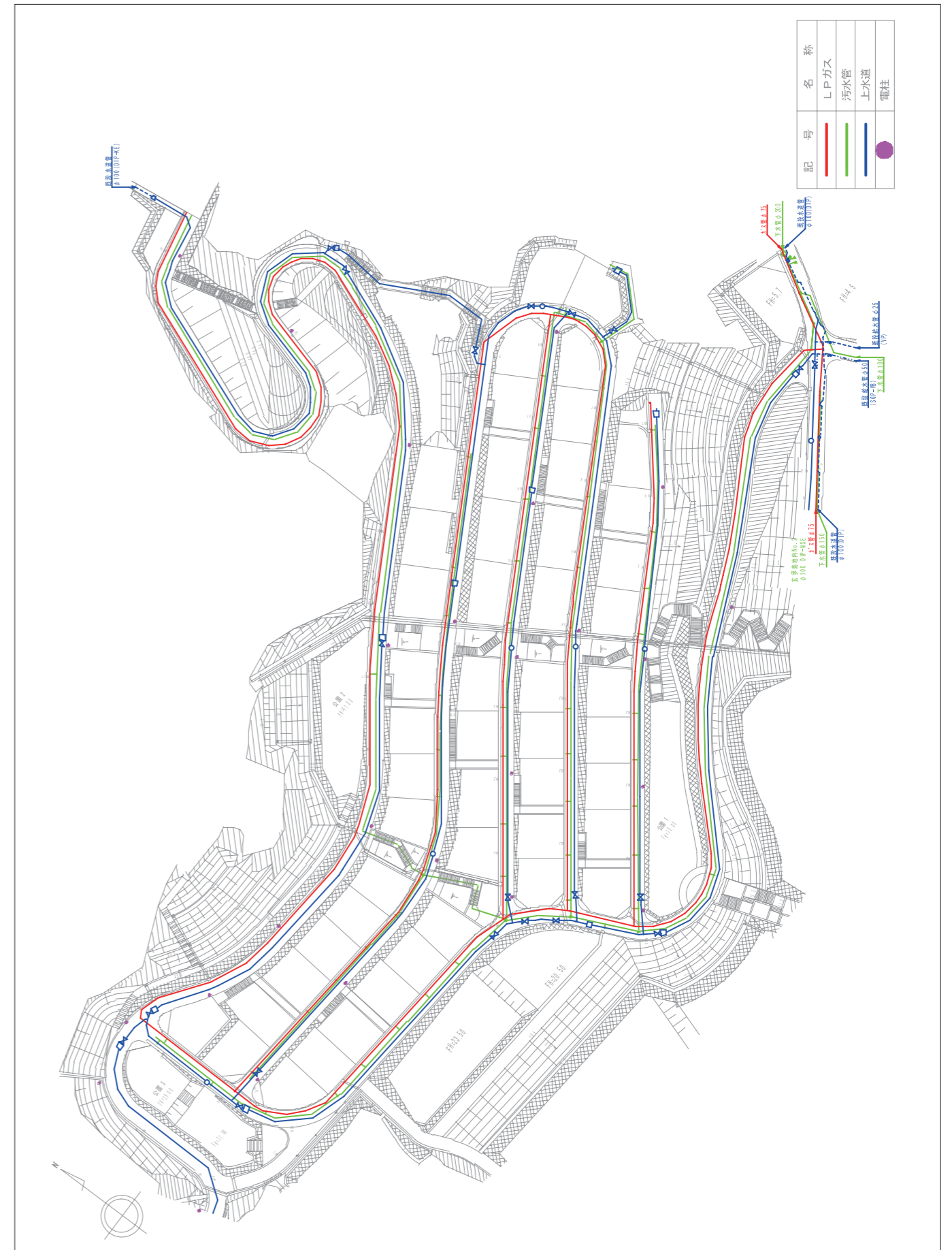
消火栓



污水管布設状況



マンホール設置状況



ライフライン整備図

第7節 公営住宅建設

公営住宅の建設にあたっては、復興計画の検討が始まる前の震災直後から、島民から要望があがっていた。これを受け福岡県では、県営住宅（公営住宅）50戸を先行して整備することとした。建設地については、漁業協同組合が漁業従事者への分譲地を保有していたため、この土地を選定した。

その後、意向調査により、公営住宅入居希望者が115戸となったため、先行して決定していた県営住宅50戸を除く65戸を福岡市が市営住宅（小規模改良住宅）として整備することとなった。

（県営住宅の概要）

敷地面積：約3,500m²

構造：鉄筋コンクリート造

規模：3棟50戸

3階建て2棟（12戸、18戸）

4階建て1棟（20戸）

住戸タイプ：2DK（約51m²）19戸

3DK（約66m²）24戸

4DK（約77m²）7戸

特徴：○居住者のコミュニティと高齢者の移動に配慮し、3棟を渡り廊下で接続するとともにエレベーターを設置

○高齢者や強風に配慮し、玄関扉に引き戸を採用

○バリアフリー仕様



県営住宅完成写真

（市営住宅の概要）

敷地面積：約8,000m²

構造：鉄筋コンクリート造

規模：7棟65戸

2階建て2棟（4戸、10戸）

3階建て4棟（9戸（一部2階建て）、9戸、12戸、12戸）

4階建て1棟（9戸）

住戸タイプ：2DK（44m²）9戸

3DK（60m²）5戸

3LDK（69m²）48戸

4DK（69m²）3戸

特徴：○まとまった敷地が確保できなかったため、1棟あたり10戸前後の小規模な住棟配置

○景観に配慮し、2階から4階建ての低・中層構造

○エレベーターを利用した上下移動支援施設を導入

○3階建て以上の5棟にエレベーターを設置

○高齢者や強風に配慮し、玄関扉に引き戸を採用

○漁業者の生活を考慮し、屋外から浴室への出入り口を一部設置



市営住宅完成写真



エレベーターにブリッジを連結した上下移動支援施設

（既存市営住宅の復旧工事）

既存の市営住宅5棟24戸については被害が少なく、震災直後の平成17年3月から4月に復旧工事を完了し、島民の帰島、仮設住宅入居にあわせて再入居した。

第8節 | 公園・広場整備

斜面集落部には、緊急時の避難場所や活動拠点としての機能を備えた公園を新たに3ヶ所整備した。また平地には、島の中心部や公営住宅付近など平地の人が集う場所に、交流の場となる広場を整備した。樹種の選定については、島の特性を考慮し、耐塩害性のある植種とした。

また、離島であり行政が直接公園の管理を行うことは難しいため、清潔で明るく安全で快適な憩いの場として利用できるように、島民で組織された「公園愛護会」が立ち上げられ、公園等の日常管理を行うこととなった。



(にぎわい広場)

公民館や漁協、新設された集会所や老人憩いの家など公共施設が集中する位置に、島民同士が集い、来島者と交流できる広場を整備した。

(玄界復興記念公園)

斜面集落部の入口に、斜面地や海が展望でき、斜面集落部へ向かう人々の休憩や憩いの場となるオープンスペースを設けた。



(玄界百合若公園)

集落部最上部に、畑地や登山する方の休憩する場となる公園を設けた。また、園内には、山火事など斜面上部での火災発生時の消火活動拠点として、消防倉庫や防火水槽を設置した。

